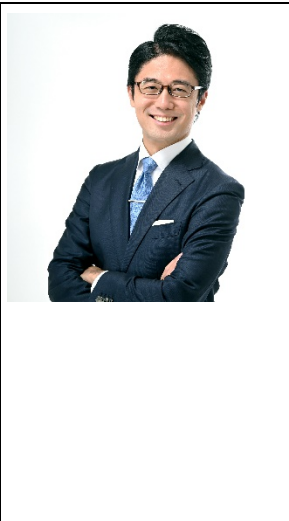


【参考資料】

エニトグループ「アドバイザリーボード」に参画する有識者一覧（五十音順）

| | |
|---|--|
|  | <p>青島 克行氏（弁護士。ぼったくり被害に精通）</p> <p>2004年10月に弁護士登録し、2013年3月に東京都新宿区で「うみとそら法律事務所」を設立。企業法務から家事事件・刑事事件まで幅広く取り扱い、特に企業法務においては法人・事業主向けの顧問契約サービスを提供。</p> <p>また、新宿歌舞伎町でぼったくり被害が多発している状況を受け、被害者支援のためにウェブサイト「新宿弁護士青島克行の歌舞伎町ぼったくり被害相談室」を開設し、法的なアドバイスや具体的な対応策を提供する。さらに1人でも多くの被害者を法の力で守るという強い使命感のもと、ぼったくり被害に関するQ&Aや具体的な対処法の情報発信を通して、トラブル防止に向けた消費者への啓発活動にも取り組んでいる。</p> |
|  | <p>鬼頭 美江氏（明治学院大学 社会学部 社会学科 教授）</p> <p>恋愛関係・友人関係・文化など対人関係の社会心理学、社会学を専門に研究。また、近年では日本の婚活イベントやマッチングアプリに関する研究活動を通じて、マッチングアプリ利用者の行動や心理的背景、社会的要因との関連性を明らかにし、現代の恋愛関係の在り方について深い洞察を提供している。</p> <p>『つながりの社会心理学－人を取り巻く「空気」を科学する』（弘文堂）著者。</p> <p>主な論文として、“Do physical attractiveness and personality traits predict romantic partner evaluations? A speed-dating study in Japan” (Kito et al., 2023; Japanese Psychological Research), “Relational mobility and close relationships: A socioecological approach to explain cross-cultural differences” (Kito et al., 2017; Personal Relationships), “Collaboration among psychological researchers, the government, and non-profit organizations for ‘Konkatsu’ (marriage hunting) in Japan”(Nishimura, Souma, Kito et al., 2022; Frontiers in Psychology)など。</p> <p>学会発表は、2024年度日本社会心理学会大会「大学生はなぜマッチングアプリを利用するのか？マッチングアプリの利用経験・利用動機と個人特性との関連について」、2024年度日本心理学会大会「なぜマッチングアプリを利用するのか？マッチングアプリの利用目的と個人特性および恋愛関係流動性についての探索的検討」など。</p> <p>受賞歴として2019年日本心理学会大会 優秀発表賞、2016年日本グループ・ダイナミクス学会 優秀論文賞など。</p> <p>日本心理学会 機関誌等編集委員（2023年～現在）、日本社会心理学会 学会活動委員（2019年度～2020年度）などの社会的活動にも参画。</p> |
|  | <p>樋口 建史氏（元警視總監）</p> <p>第89代警視總監をはじめ、和歌山県警察本部長、北海道警察本部長、警察庁生活安全局長などの要職を歴任。退官後はミャンマー駐箚特命全権大使を務め、ミャンマーの民主化プロセスや国づくりを支援。その後は、カジノ管理委員会委員や技能実習制度と特定技能制度の抜本的改善のための政府有識者委員のほか、第一三共や三浦工業などの大手企業における社外役員を歴任し、ビジネスの現場において安全やコンプライアンスを中心に課題解決への助言を行う。</p> |



山口 真一氏（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 教授）

計量経済学・社会情報学・情報経済論を専門とする経済学者。

情報・メディア環境の変化に伴う人とテクノロジーの関係性における課題に焦点を当て、計量経済学の手法を用いながら、SNSの普及に伴う偽・誤情報や誹謗中傷・生成AI・サイバーチェック・アバターによる社会的影響の計測や、プラットフォーム戦略・データ資本主義化における適切なビジネスモデルの構築など、多岐にわたるテーマに取り組んでいる。

研究活動の成果を社会に還元することを重視し、内閣府「AI戦略」をはじめ、総務省・厚生労働省・公正取引委員会などの政府有識者会議の座長や委員を務めるとともに多数のメディアに出演して専門知識を広く伝えている。

主な著作は『ソーシャルメディア解体全書』（勁草書房）、『正義を振りかざす「極端な人」の正体』（光文社）、『なぜ、それは儲かるのか』（草思社）、『炎上とクチコミの経済学』（朝日新聞出版）など。



中田 華寿子氏（内閣府 第8次消費者委員会委員。エニトグループの社外取締役を務める。アドバイザリーボードの座長）

アクチュアリ株式会社代表取締役。国内外でのさまざまな業界における企業経営やマーケティング・ブランド戦略の経験を基に、企業の成長戦略や組織改革、ブランド構築などのコンサルティング業務を行う。

また、株式会社エニトグループ社外取締役をはじめ、複数の民間企業で社外取締役・監査等委員を務める。

『10万人に愛されるブランドを作る！』（東洋経済新報社）著者。

2023年9月より内閣府 第8次消費者委員会の委員として活動。1人でも多くの人々が消費者問題に関心を持ち、被害の発生や拡大を防ぎ安心・安全に豊かな消費生活を送ることができる社会の実現を目指して消費者保護と情報提供の強化に取り組む。